

日本史B

～授業プリントNo.4～

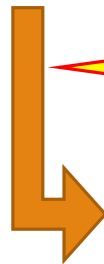
【クニはどのようにして生まれたのか】

～小国の分立～

戦争のはじまり

【弥生時代の特徴】

水稻耕作が生活の



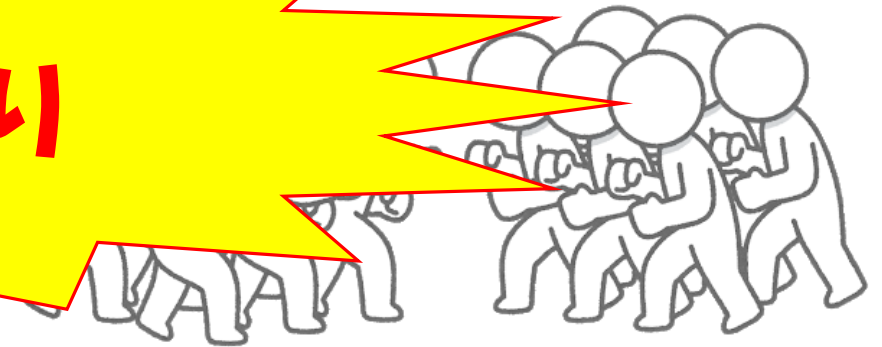
小国

灌漑用の水路

収穫物を貯蓄

戦争のはじまり

集落同士で奪い合う



～小国の分立～

戦争のはじまり

弥生時代は、人と人との争い（戦争）が始まった時代

集落も戦いに備えた形に変化

～小国の分立～

戦争のはじまり

1) 環濠集落

＝周囲を濠や土塁で囲んだ集落

集落の防衛のため



～小国の分立～

戦争のはじまり

代表的な環濠集落

2) **吉野ヶ里遺跡** (佐賀県)

= 40ヘクタールに及ぶ弥生時代最大級の遺跡



**USJのパーク面積が
約43ヘクタール**

～小国の分立～

戦争のはじまり

3) 高地性集落

＝山頂や丘陵上につくられた集落

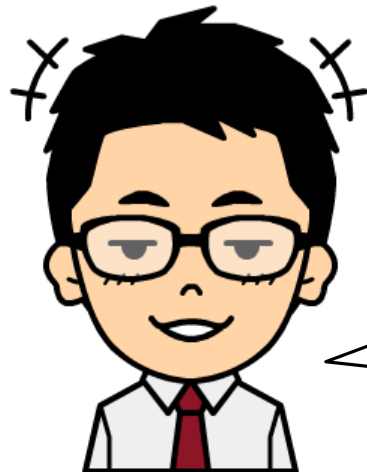
「逃げ城」や
「狼煙台」として



～小国の分立～

戦争のはじまり

「狼煙」（のろし）って・・・？
火を焚いて煙を上げ、遠くに
情報を伝える手段



今でいう
スマホみたいなもの



～小国の分立～

戦争のはじまり

集落での食料生産や、集落同士の戦争が始まる



人々をまとめ上げる支配者（首長）が出現



首長を中心としたまとまりが生まれる

= 4) 「クニ」（小国）

～小国の分立～

戦争のはじまり

小国同士で戦争をくり返す



勝った集落は負けた集落を支配



より大きなまとまりが形成



～小国の分立～

戦争のはじまり

近畿地方・・・5) 銅鐸

瀬戸内海・・・6) 銅剣

九州北部・・・7) 銅矛・銅戈



まとまった地域で同じ祭祀の道具を使用

⇒ その地域を支配していた大きなまとまりが存在

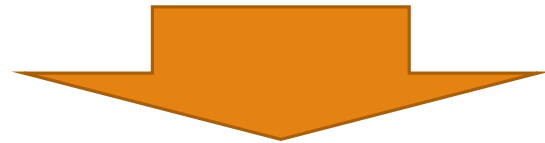
～小国の分立～

◎なぜ、西日本に大きな「クニ」が存在しているのか

弥生時代の大規模集落は、西日本～畿内に集中している

ヒント 弥生時代に伝わったものといえば・・・

理由



なぜ？



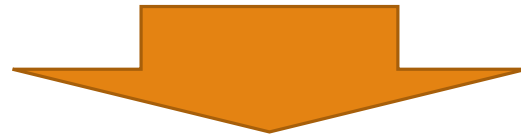
水稲耕作が西日本で盛んにおこなわれていたから

～小国の分立～

◎なぜ、西日本に大きな「クニ」が存在しているのか

なぜ、西日本で水稲耕作が盛んにおこなわれていたのか

理由



西日本は食料不足だったため、食料生産の文化が広がった

西日本で水稲耕作が始まったことで、人口が増加
⇒「クニ」が形成されていく

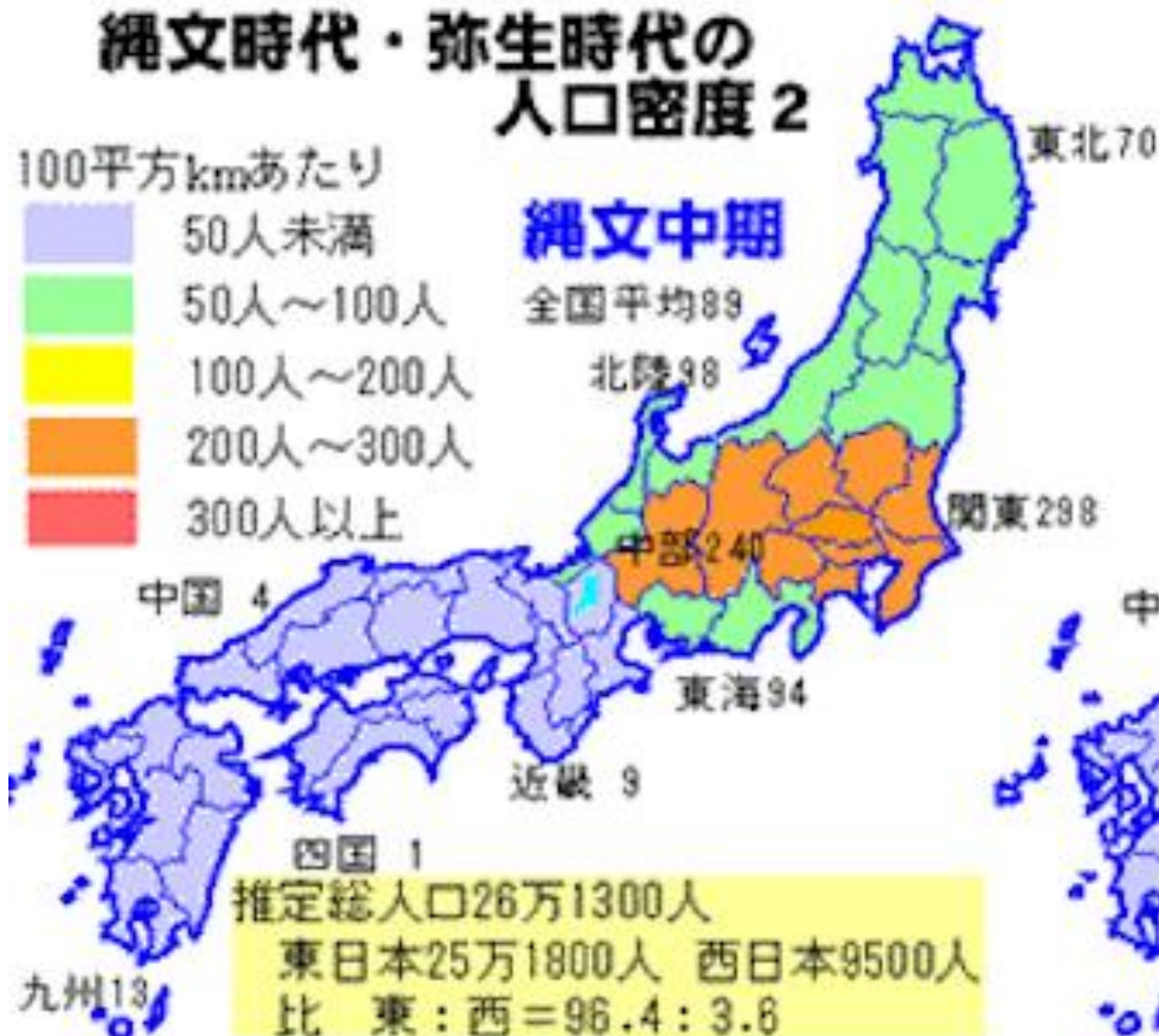
縄文時代・弥生時代の人口密度 2

100平方kmあたり



縄文中期

全国平均89



推定総人口26万1300人
東日本25万1800人 西日本9500人
比 東：西=96.4：3.6

縄文後期

全国平均55



～小国の分立～

◎なぜ、西日本に大きな「クニ」が存在しているのか

縄文時代の集落は中部・東日本に集中している

理由

東日本は食料が豊富だったから



～小国の分立～

「漢書」

8) 「漢書」地理志

夫れ〔 楽浪 〕海中に〔 倭人 〕有り、分れて
〔 百余国 〕となる。歳時を以て来たりて〔 献見す 〕
と云ふ。

訳) 楽浪郡の海の向こうに倭人がいて、百余りの国に
分かれている。定期的に使者を派遣している。

～小国の分立～

「漢書」

楽浪郡って？

＝現在の朝鮮半島におかれた郡

楽浪郡の向こう

＝ 朝鮮半島の向こう



～小国の分立～

「後漢書」

9) 「後漢書」東夷伝

建武中元二年（＝〔 57 〕年）倭の〔 奴国 〕、
貢を奉じて〔 朝賀 〕す。

訳) 建武中元二年、倭の奴国が、貢ぎ物をもって、朝廷の
儀式に参列した。

～小国の分立～

「後漢書」

使人自ら〔 **大夫** 〕と称す。倭国の極南海なり。
光武、賜ふに〔 **印綬** 〕を以てす。

訳) 使者は自らを大夫（たいふ）と称した。奴国は倭の最南端である。光武帝は印綬を与えた。

～小国の分立～

「後漢書」

安帝の永初元年（＝〔107〕年）、倭の国王帥（師）升等、〔生口〕百六十人を献じ、請見を願ふ。

訳) 安帝の永初元年、倭の国王帥升（すいしょう）たちが
奴隷百六十人を献上して、天子との面会を求めた。

～小国の分立～

「後漢書」

桓靈の間（＝147年～189年）倭国大いに乱れ、
更〔相攻伐〕して暦年主なし。

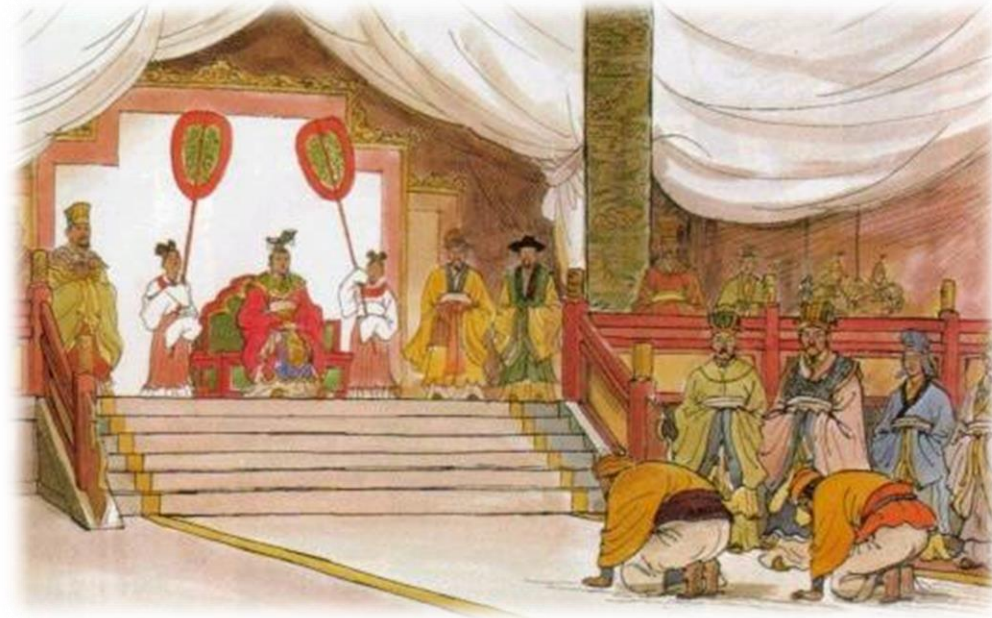
訳) 桓帝・靈帝の時代に、倭国が大いに乱れ、互いに争い
あって長年主がいなかった。

～小国の分立～

「後漢書」

10) 朝貢

外国人が来朝して、貢ぎ物を差し上げること



～小国の分立～

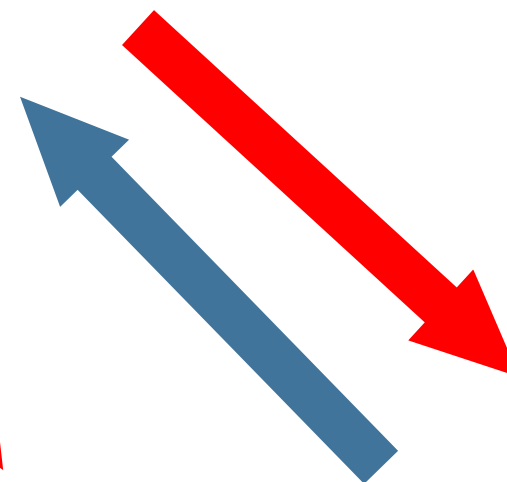
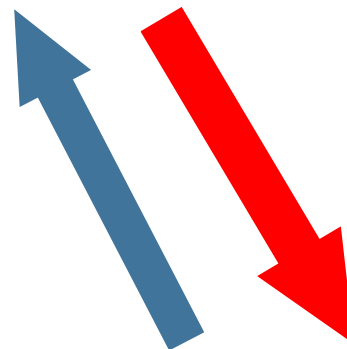
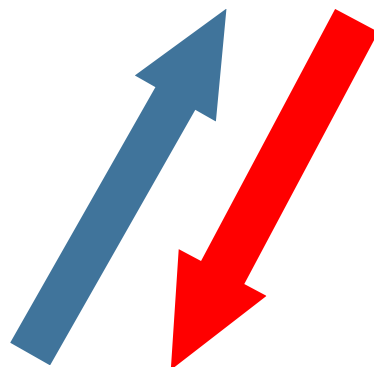
「後漢書」



中国の皇帝

朝貢

冊封



〇〇国

〇〇国

〇〇国

〇〇国

～小国の分立～

「後漢書」

1784年 福岡県12) **志賀島**で金印が発見される



13) **漢委奴国王**と刻まれている
＝光武帝から奴国王へ与えられた

中国皇帝に認められた



～小国の分立～

「後漢書」

14) 倭国大乱

＝弥生時代後期に倭国で戦争が続く

小国の王たちは、**敵対する国と争いながら**
中国に朝貢していた

なぜ？



～小国の分立～

「後漢書」

なぜ、小国の王は、中国の皇帝に朝貢していたのか

ヒント 倭国では、小国同士で戦争中・・・

中国との関係性を作ることで、

争っている他の小国に対して優位に立つため

【課題】

- 授業プリントNo.4
「復習問題」を完成させる
⇒次回の授業の最初に提出
- 授業プリントNo.5
「予習問題」を完成させる